

久留米の自然



餌を運んだ後顔を出したシジュウカラ

シジュウカラ子育てでまたまた大忙し

久留米の自然 第117号 2013年1月1日 シジュウカラ シジュウカラ科
撮影年 2012年 撮影場所 久留米市高良内町 撮影者 松富士 将和

我家の金木犀の巣箱に、シジュウカラが営巣しました

松富士 将和

我家・久留米市青峰は、明星山の山裾の街で、裏が林になっており、そこには鳥たちが良く訪れて来るところです。ひと月前にはアナグマにも出会い（3度目です）写真にも撮りました。

最近シジュウカラが我家の前の電線に良く止まったりしているので、昨年、12月に庭の金木犀の高さ2mほどの所に巣箱を架けましたら、今年の4月、早速シジュウカラが営巣しました。ヒナ

がかえると親は餌取りに大忙しでした。

残念ながら、巣立ちの時は見られませんでした。が、2回も子育てをしました。

巣箱は、12月から2月にかけて架けるのがベストです。が、高良山四季の森では今年11月に企画しましたが、雨で流れましたので、3月10日にもう一度やる予定です。



故丹部竹志氏

名誉顧問丹部武士（竹志）氏が2012年8月22日、91歳で永眠されました。ここにその死を悼み、先生の思い出を書いていたいただきましたのでご紹介します。

丹部武士（竹志）先生の思い出

橋田 沙弓

丹部先生にはじめてお会いしたのは、昭和47年(1972)の夏、初めての会合が久留米市教育クラブで行われ、その時でした。8月に高良大社の高良会館2階で総会が行われました。江口初代会長(久留米山草会)がきまり、梅野副会長(久留米昆虫同好会)、古賀副会長(久留米郷土研究会)、小林副会長(福岡野鳥の会)、丹部副会長(すぐ久留米野草の会結成)が選出されました。この副会長の中でついに丹部先生が91歳で、今年の夏8月22日に亡くなりました。発足のきっかけは高良山の神籠石の一部の破壊と2kmにわたる断層が出来たことでした。原因は高良大社の駐車場として、鷲ノ尾岳の1/3を削り取ったことでした。この山

の破壊を告発したのが、秋吉初代事務局長でした。数年後、久留米市が高良山の森林公園一帯に20万本のツツジを植栽するという計画が持ち上がり、当会は「高良山ツツジ公園化反対実行委員会」をいくつかの団体とともに結成しました。ツツジ公園化反対運動の中心になられたのが、丹部先生でした。高良山の自然を愛し、高良山の植物をすみずみまで調べ尽くしておられました。だから、高良山の緑を守ろうと立ち上がられたのです。署名運動を先頭になって、バイクで走りながら、久留米市民の一人一人に訴えられたのです。この丹部先生の自然を愛する情熱は、その後の山岳ゴルフ場反対へと、続きました。私たちは現在、宮の陣町八丁島のゴミ焼却場建設でも、この久留米市内で一等優良地の農地がダイオキシンや重金属イオンに汚染されないように、反対しています。丹部先生は久留米野草の会の初代会長として植物の調査に没頭されました。お人柄は誰にでも、おおらかでやさしく笑顔で応じられました。晩年、久留米の自然を守る会の名誉顧問になって頂きました。私たちは丹部先生の指導を受けたものとして、この意志を受け継いでいきたいと思っています。ご冥福をお祈り申し上げます。

丹部先生のおもいで

河内 俊英

丹部先生との出会いは、「久留米の自然を守る会」の観察会でした。わたしが久留米大学に赴任して数年の1970年代、まだあまり久留米の自然観察ポイントを知らない時期でした。野草の会を主催されていて、毎月1回野草観察に行くとのことでした。昆虫のこととその食草は少し知っていましたが、植物の名前はナカナカ覚えられない日々。そこで、できるだけ参加して、ついて歩きましたがいまだに進歩しません。しかし出来の悪い弟子？に対して根気強く、何度でも教えてくださいまし

た。この姿勢は学ばなくては、出来の悪い子ども達にこの精神で接しなくては。いつも愛車のバイクを愛馬のように駆使して、各地を駆け回る姿とユーモア・センス抜群で、博識広いお話が今でも印象的です。高良山にゴルフ場が出来なかったのは、丹部先生が先頭に立たれ運動したからです、ありがとうございます。ご冥福をお祈りします、合掌。

丹部武志さんを悼む

松富士 将和

丹部さんとは、久留米の自然を守る会の前身の高良山の自然を護る会からの付き合いで、40年ほどになります。

創立のメンバーの初代江口会長、2代目梅野会長、秋吉事務局長、3代目小林会長、古賀副会長は既に故人となられ、丹部さんも亡くなられて、残るのは、橋田さんと私（当時は青年部）が残るだけになりました。まさに「時は移ろう」です。

丹部さんが久留米野草の会を創られたのは、久留米の自然を守る会が出来てしばらくしてからだと思います。私もすぐに会員になりましたが、私は、鳥が食べるモノ、果実酒になるもの、食べられるものしか興味が無かったので良い会員ではありませんでした。丹部さんは全てに深く詳しくかったので、キノコのことも含めいろいろと教えて頂いたものです。しかし、観察会の時に（あるいは後で）貴重な植物を採集したり、盗掘したりする人がいて我慢できず、すぐに辞めてしまいました。

「野草万歳」の丹部さん。

私の野鳥の先生だった小林實さんは「野鳥万歳」人でしたが、植物にも昆虫にも詳しい人でしたから、私も、もっと植物のことを丹部さんに学んでおけば……と、今になって後悔しています。

丹部氏を偲んで 米田 豊

丹部氏は久留米野草の会会長、当会の副会長・

顧問としてばかりでなく、市や県の文化財専門委員として長年に渡り多大な貢献をされて来ました。在野の研究者ゆえに権威主義的な大学や行政との間で色々なご苦労があったと思います。私は、その反骨的な姿勢には野草と自然をこよなく愛し、研贖された裏付けがあつてこそと敬服しています。

多くの方に野草の魅力を紹介し、バイクで野山を駆け巡っていました。吉見獄のふもとでの「春の野草を食べる会」は、丹部氏の人柄に引かれ、多くの協力者や参加者で賑わいました。まさにカリスマ的な存在でした。平成11年に出版された「野草ばんざい」には奥様が挿絵を描かれ、味わいのあるエッセーでした。毎年頂いた年賀状は夫婦合作の干支に因んだ植物の短文と絵で、楽しみでした。ご冥福をお祈り致します。合掌

丹部竹志氏を悼む

荒巻 健二

丹部氏との御つき合いは今から34年前1979年当時守る会の会長だった梅野明氏からのおさそいで入会して以降のおつき合いであった。

昭和60年、1985年家内が入院する迄は2人で毎年春恒例の「野草を食べる」に出席した。

野草の研究者として九州一の大家であり、亦木本類にも詳しくあられたので私の専門である昆虫関係での教えを度々乞うたものである。

ある時私が事務局を預かっている久昆会員の一人が「アセス」会社を設立し、ダンボール3箱の野草の同定を依頼され氏にお願いした。

忽諭、彼からの謝礼は差し上げたが、小生十分でないと考え氏にお詫びを言ったところ「自分も大へんに勉強になった」と言われ、氏のこの思いやりには感謝したものである。

また一日だけではあつたが財団法人の某社の依頼で佐賀県の一級河川敷の野草の植生についての

調査を氏にお願いして同行。

丹部氏「外来植物の種が多いですね」次々と和名を言われ社員が書き留めていた。

小生「5、6種覚えまして」氏、すかさず「すぐ忘れますよ」と

一昨年6月下旬、筑前町夜須高原に採集行に赴き「ヨモギ」3種を持参して同定をお願いに久し振りに丹部氏宅へ赴く。

「数年前発病して以降、全く過去のことは、すべて忘れてしまいました。」と。

あれだけの知識があられた氏の過ぎし日を思い廻らし一瞬？ 然とした。

その後会える事もなく昨日橋田会長からの連絡有り、氏の訃報を知り、拙文を綴り蓋棺録とした。合掌。

生き物に魅せられて

溜池の冬支度の巻 松永紀代子

2012年11月の半ば、シロハラヤツグミが賑やかな林を抜け、堰堤に出た。そばのヤシヤブシの実にはマヒワの群れ。私の気配でチイチイジジーとメジロたちとともに飛び立っていった。

数日前から水抜きが始まった池では、管理者の方が、一番下の栓を朝方開けられ、昼過ぎには、すっかり干潟になっていた。そんな泥の上をモソモソ動くものがいた。背中に3本の隆起がある。クサガメだ。

亀が通った後には、足跡とともに、体の重みで窪んだ部分にじわっと水が筋になってたまっていく。亀は少しはっては休み、方向を変えては泥に顔を近づけたりしていたが、Uターンすると止まった。と、頭から泥にズブズブズブ。あららっ、体もなんて簡単に。すぐに尻尾も泥に消えた。小さな泡がポワン。ポコン。

亀が潜った部分は、そこだけ少し丸く水がたまっている。見回すと、あちらにも、こちらにも、

足跡の途切れたところに同じような跡があった。眼の前で起こったことに、なんだか暖かい気持ちになった。

池干しのおかげで、観察できたクサガメの泥潜り。こうして冬場も池底に棲んでいるんだなあ。他にもいろんなものがあるのだろう。ザリガニたちも、ピンホールのような足跡をいくつも残していく。

ゴロゴロと遠くで稲光。おっと急がなきゃ。帰り道、木の葉越しの池を見ると、サギたちが舞い降りたところだった。

ひととき 動物笑い話 その61 ミサゴ 米田 豊

「最近、沖縄に配備された米軍の新型輸送機のおスプレイは日本語のミサゴだよ」「ミサゴはトビよりやや小さく、腹面が白いタカで魚捕りの名人だよ」「そう、ホバリングして、水面近くを泳ぐ大型の魚をねらって足から突っ込み、捕まえるよ。指は可動指で棘(微突起)もあり、魚をしっかり捕獲・保持できる構造になっているんだ。魚を運ぶ時、風の抵抗を少なくするために魚の向きを変えることもするよ」「腹面が白いのも魚に気付かれないように空に溶け込ませているのかもね」

「輸送機にオスプレイと名付けたのは、垂直着陸翼(エンジン)の向き変更、大量の物資運搬がミサゴに似ているからかな?」「なるほどね。でも、ミサゴの捕獲・運搬ミスは愛らしいけれど、オスプレイの事故は許されないわよ。輸送機だけに重荷になるわ」

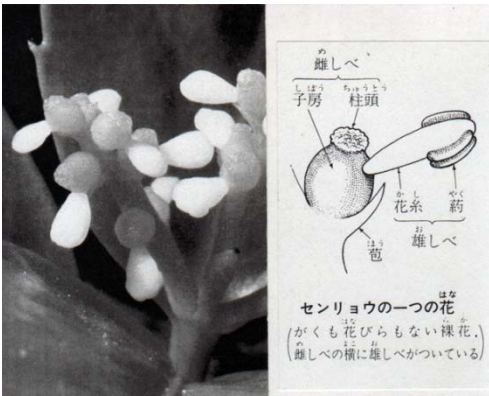
*海岸、大きな川や湖にすみ、魚を捕食する。

お詫び:本誌116号5ページ動物笑い話のタイトルが「手刈り」となっておりましたが正しくは「毛刈り」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

郷土の樹木(19)

センリョウ 猪上 信義

センリョウ科の常緑低木。背丈は50cm~1.0m、集まって出る茎は細く、緑色。葉はやや厚ぼったく光沢があり、緑に粗い鋸歯があり、対生し、節の上は少し膨らみます。通常被子植物は養分や水分を『導管』を通じて葉や茎に送りますが、センリョウにあるのは裸子植物に見られる『仮導管』です。つまり花では進化したものの、茎の構造が進化しきれなかった珍しい植物で、日本産の植物では他にヤマグルマ(ヤマグルマ科)があります。



6~7月頃、茎の先端に小さな花を穂のようにつけますが、花といっても花弁や萼がなく、1本の黄色い雄しべと黄緑色の雌しべだけからできています。これは同じ科のヒトリシズカやフタリシズカと同じです。花が終わると雄しべは落ち、子房が膨らんで果実となり、初冬の頃には直径5~6mm位の赤い実となります(稀に赤い色素を欠いたキミノセンリョウもある)。果実には柱頭の跡とともに、雄しべが落ちた跡がはっきり残ります。

日本では本州の太平洋側から四国、九州、南西諸島などの低山地に生え、中国南部、フィリピン、インドシナ~マレー半島などにも分布します。県内では海拔400m以下の常緑林内やスギ林内に生え、久留米市内では高良山周辺によく見られるし、近辺の社寺林にもあります。あまり群生することはないようですが、これは昔庭木として栽培した

り生け花材料として採取されることが影響しているのかもしれませんが。ただ春日市の春日神社境内には群生地が見られ、昭和39年には県の天然記念物に指定されました。しかし指定後は、多少盗掘の影響もあるでしょうが、数が減ってしまいました。指定するだけで植物の生態を考えずに、そのまま放置する日本の文化財行政弊害のあらわれです。

センリョウ科は冬の寂しくなった時期に、濃い緑色の葉の上に真っ赤な実を付けるので、『千両』の価値があるところからとされていますが、これは江戸時代後期からのことで、それ以前から仙蓼花、仙蓼葉(共にセンリョウカという)と呼ばれていました。また別名草珊瑚とも呼ばれました。

今では正月用の生け花の材料として欠かせないものですが、市販のものはもちろん野生品ではなく、スギ林内やハウスなどで栽培されたものです。県内では主に広川町や宮若市、糸島市などで行われています。

自宅の庭で栽培されている方が多いようですので、その要点を紹介します。まず直射日光に当たると葉が焼けて汚くなるので、半日陰で栽培します。かといって暗すぎると花や実がつかなくなり、衰退します。花や実がついた枝はそのままでは翌年伸びにくいので、2~3節残して剪定すると春先に脇から新芽を伸ばし、充実した枝には花や実が付きまします。夏の乾燥には弱いので根本周りを落ち葉や腐葉土で覆っておきます。果皮には発芽抑制物質があるのでそのまま蒔いてもなかなか発芽しません。この点、鳥に食べられ糞として排出されたものはよく発芽します。株分けや挿し木でも殖やせます。

琉球地方ではその昔、種子を煎ってゴマの代用としたそうです。どんな味が興味ある方は床の間に飾られた実でお試し下さい。但し万一不具合が生じて、筆者は責任を負いかねます。

高良川流域のキノコ (その19)

角 正博

前回はタチウロコタケ科でした。今回はカンゾウタケ科カンゾウタケ属です。一属一種の特徴的なキノコです。

34. カンゾウタケ (肝臓茸) *Fistulina hepatica* (写真)

傘は扇形～楕円状へら形または舌状で、付け根は狭まり短柄状または無柄であることもあります。傘の表面は若い時は濃赤紅色で、コジイの根元ではよく目立ちます。古くなると黒っぽくなっていき、暗赤褐色となります。肉は獣の肉のように柔らかく、血紅色の赤い汁を含んでいるため、触るとまるで肉汁のように出てきて、キノコらしからぬ様子に少しびっくりします。傘の下面は淡紅色、古くなるにしたがい、暗赤色になっていきます。子実層托は管孔ですが、管孔は一本一本が離れやすい円筒状の管が密に並んでいるのが特徴的です。心材の褐色腐朽を起こすといわれています。

学名の *Fistulina* は「管」、*hepatica* は「肝臓の」という意味で、肝臓を連想させる形態と色彩によるものです。保育社図鑑によると、欧米では通称を「肝臓茸」とか「牛の舌茸」と呼び、日本では「舌茸一名キツネノシタ」と呼んでいたことが記されています。「肝臓」にせよ動物の「舌」にせよ、確かにこの特異なキノコの姿をよく表していて、言い得て妙、その名前の付け方に感心させられます。「カンゾウタケ」と比べて、「キツネノシタ」という和名もわるくない気がします。しかし、日本の近代以前は穢れの意識が強かったので、「カンゾウタケ」は少しストレートすぎて「舌」を通称に用いたのかもしれませんが。標準和名の「カンゾウタケ」は、学名をもとにしたものでしょう。

カンゾウタケは、高良川流域では、5月上旬～下旬頃にかけて、時折見かけることがあります。出会うのはいつもコジイ林です。コジイの樹幹の地際部でよく見かけます。



カンゾウタケ

緑のハイキング

大木 武彦

平成24年11月23日(祝)、第31回くめ緑の祭典《緑のハイキング》が久留米市御井町の御井小学校—高良大社—南回りコース—森林つじ公園—かぶと山キャンプ場—永勝寺—柳坂はぜ並木のコースで行われました。当日は曇り空でしたが、一般、家族連れ、スタッフ合わせて300名ほどの参加でした。かぶと山では昼食のぶた汁配布やビンゴゲームなどのお楽しみもあり、終点の永勝寺では完歩賞の花苗を受け取って、参加者みな幸せな気持ちで解散いたしました。当会からは実行委員として橋田、角、大木、中野、梅野の5名が参加して、ハイキング途中の説明とかぶと山で植物、キノコ、昆虫のパネル展示と説明・指導を行いました。



植物、キノコ、昆虫の説明

高山美子氏から止めようダイオキシンネットワーク関東に宛てて久留米市のゴミ焼却場建設工事についての報告がありましたのでご紹介します。

止めようダイオキシンネットワーク関東
カネミ油症支援センター

御中

2012年12月5日

久留米の自然を守る会会員

カネミ油症患者

高山 美子

この度私達久留米市民はゴミ焼却場建設工事による造成工事が急に始まり驚きとともに憤りで一杯です。そこで考えあぐねた末、どうすればよいか困ってしまい皆様のご指導を願いたく近況を報告させていただきます

報告事項

久留米市は、過去に歴史上最悪汚点である環境汚染を久留米市荒木町において発生させた事件に対し、未だに救済の手を差し伸べるところか、またもや大量のダイオキシンを近隣地域や筑後川流域、さらには有明海全域にまきちらす行動に出ている。

振り返ればこの福岡県久留米市荒木町は、当時、三井東圧の子会社であった三西化学工業の工場による枯れ薬剤製造と除草剤製造途中に環境汚染を発生させたことが判明した地域である。

しかしながら、その被害者である清川正三子氏が、命懸けで被害者住民や家族の生命を守るため最高裁判所まで闘いながらも、国や福岡県そして久留米市や系列企業側の弁護士による非情な冷たい妨害にはばまれ、敗訴した悔しくも悲しい健康被害患者が何の保障も受けられていない。

環境汚染原因のダイオキシン発生の苦い経験をしたお膝元であるにもかかわらず反省の態度どころかまたもや大きな環境汚染源となるゴミ焼却場

建設を環境省に許可も受けないまま現在強行工事中であります。

長い間にわたる多くの反対住民活動を無視し、説明会継続申し立てを一方的に切りすて、担当弁護士の馬奈木氏や市民オンブズパースンくるめら数名が2012年11月29日に直接環境省を尋ね請願書を出したところ今回この工事は未だに環境省は許可を出していない事実が判ったのだ

この埋め立て造成地はついでこの前まで麦や野菜、水稻などの優良農地として使用されており農水省が主導した大規模ほじょう整備資金を投入して完成した地域自慢の先進プロジェクト優良農地として使われている場所である。

地図を広げれば九州自動車道久留米インターチェンジと佐賀県鳥栖ジャンクション間に位置し、想定風下地域としては、近くに久留米大学医学部や最新治療施設として新幹線新鳥栖駅前に来春開業予定の重粒子線ガン治療病院がある。そのような多くの人々の命を救う病院の集中地域であり、日常的にドクターヘリが飛んでいる場所なのだ。

ダイオキシン発生源であるゴミ焼却施設は断じて造ってはならない。

今後もこのままでは工事はどんどん進んでいくであろう。危機感つりの、居てもたってもいられず報告致しました。

どうかご助力ご指導頂きたく、解決策をお示しくくださいますよう伏してお願い申し上げます。

上記の報告に応じて、早速止めようダイオキシンネットワーク関東とカネミ油症支援センターがゴミ焼却場の建設に反対しなければいけないとのことで、東京で活動を起こしてくれている。



造成工事の看板



造成工事の現場

今回ゴミ焼却場建設埋め立て工事現場をこの目で見て助け船を要請した止めようダイオキシンネットワーク関東とカネミ油症支援センターの活動を簡単に説明します。

関東一円で起きたゴミ焼却場から出るダイオキシン被害を調査していく中で「カネミが地獄を連れてきた」矢野 トヨコ 著葦書房に出会い、ダイオキシン汚染による凄まじい人体被害の実態を知る。活動の中心にカネミ油症支援センターを有識者とともに立ち上げた活動家。

多角方面からなる被害者実態調査や、医学的な追跡調査を行い、被害者救済に尽力されている。

また、三西化学工業によるダイオキシン被害者である、清川正三子様の自宅にも尋ねて行き直接会って、埋もれつつあった被害、泣き寝入りしそうな被害全容を久留米の自然を守る会会員たちと協力し掘り起こしている。

あまりにも長い間進展が無く風化しかかった被害者の苦悩を取材した数多くの良識あるジャーナリストたちの告発記事と検証本が世にでたことにより弾みがつき被害者みずから声をあげたこともあり、世の中の皆様からなる多大な力添えを頂き、今年の国会でようやく念願のカネミ油症救済法案が可決されました。何と被害発覚後45年もの長い道のりであった。

ここまでたどりつくには多難続きで被害者の中には自殺を選んだ者や病気におかされ、無念にもすでに亡くなった人びとや、未だに原因不明と医者から言われながら苦しい病と闘っているたくさんの方の被害者がいる。

またダイオキシン被害からくるホルモンかく乱物質の影響で精神不安定となり、離婚され、泣き泣き子供と離別された者もいる。

このような 理不尽で地獄のような現状に突破口を開き、解決策を強力に推進した一翼に油症医療恒久救済対策協議会のめざましい活動と止めようダイオキシンネットワーク関東やカネミ油症支援センターなど等の血のにじむ 地道な活動が基盤となっている。

次世代にも及ぶ地獄のような底知れぬ健康被害をこれ以上 増やしてはならない。

我々被害者は 身をもって警鐘を鳴らしたい。

高良川流域の地衣類（その7）

角 正博

社寺や公園の石垣、石碑や鳥居、墓石には、コガネゴケ、レカノラ・スブインメルゲンズ、キクバゴケ属、ウメノキゴケ、コフキカラタチゴケ、キウラゲジゲジゴケ、ムカデコゴケ、コフキジリナリア、トゲカワホリゴケ、ヘリトリゴケ、ヒメザクロゴケ、イワニクイボゴケ、モエギトリハダゴケ、キッコウゴケ属、レブラゴケ属などが見られ、コンクリート壁にはツブダイダイゴケがみられます。

さらに、こうした社寺や墓地、公園などの日当たりのよい地面にはヒメジョウウゴケ類が見られる一方、日陰の陰湿で軟らかい岩上、腐り礫の陰湿な切通しなどにはハコネイボゴケが見られます。

5. 高良川流域の地衣類

では、さらに高良川流域に生育する地衣類を丁寧に見ていきたいと思えます。こうした地衣類のような馴染みのない菌類を扱う際は、初心者でも属の見当をつけることができるような、簡易的・補助的な検索表があると便利なものです。地衣類を分類する際には、113号の「高良川流域の地衣類（その3）」で述べた「形状による区別」や「共生藻による区別」などを目安にすると、ある程度、属の見当をつけることができます。『原色日本地衣植物図鑑』（吉村庸、1974）などを参考に、簡易的・補助的な検索表を添えて、高良川流域に生育する地衣類を取り上げてみたいと思えます。

まず、形状によって大きく次のように分けます。

- I. 形状は、樹枝状に分岐したり、棒状で直立したりしている。→ 樹状地衣
- II. 形状は、植物の葉のように平べったく、腹面の偽根などで樹皮や岩等に着生している。→ 葉状地衣
- III. 形状は、岩や樹皮の表面に薄く、無定形に広がり固着する。→ 固着（痂状）地衣



ツブダイダイゴケ

金丸川水域近況報告 平成24年12月現在

河川環境保全モニター

野口 勝司

○水質変化

NH₄⁺、PO₄⁻ 共に平成22年、23年に比し汚濁度微増

NH₄⁺-0.1ppm (平成22) 0.17ppm (平成23)
0.3ppm (平成24)

PO₄⁻-0.1ppm (平成22) 0.15ppm (平成23)
0.17ppm (平成21)

原因 沿岸流域からの生活排水などの流入が推察される。

○金丸川の流域の変化

①筑後大堰より上流1.5km付近水深1.4m ⇒0.7m
と川底浅くなる。

原因 7月の上旬と中旬の2回の集中豪雨(700mm)によるものと思われる。

②流水の障害、景観の喪失(ゴミ、ビニールなど樹木に絡みつき)

満潮時における逆流、P、Nを含む富栄養化物の堆積など

流域の樹木(オオタチヤナギ、オニグルミ)などの異常伸長による

付記

県久留米土整備事務所に逐次道路、流域の植物(特に樹木の伐採を要請している。

○水鳥の飛来状況

カモ類(マガモ、カルガモ、ヒドリガモ)の激減
下流域に顕著

コサギ アオサギ ハクセキレイなど採餌場(金丸川 池町川の合流域付近)減少

原因

1 下流域 中央浄化センター南側下流域(約400m)

護岸工事

下流域の環境自然が変わった。

2 金丸川 池町川の合流域右岸一帯の道路工事で交通量が若干増加した。

3 3年前よりハシブトカラスが住み着いている。

例会報告

第399回例会

水辺の自然観察会魚ツチング教室

雨天のため中止

第400回例会

筑後川観月会

古賀 信夫

9月22日の土曜日、くるめウスにおいて恒例となる筑後川観月会を行いました。あいにくの雨模様でしたがたくさんの方に集まってくれました。語り部の民話を聞いたり、あるいは星座の話の聞いたり秋の夜長を楽しみました。

観月会の感想文

野中町 高橋三枝

雨がふって残念でした。かたりべは、初めてきく話もあり楽しかったです。

野中町 たかはしなおき

つきとほしのしゃしがみれてうれしかった。

善導寺町 西 美鈴

今日は天体観そくができなくて残念でした。でも、スライドショーをたくさん見れたのでよかったです。次くる時は天体観そくをしてみたいです。お話では、カップのお話がおもしろかったです。ちくご川のカップは、私が思っていたよりも意外でびっくりしました。今日はありがとうございました。

民話に興味があつて参加しました。

○人を大事にすることの大切さを教えていただきました。

○三人の方の笑顔に心が洗われている気がしました。

民話ってすばらしいですね。

星の方は、ぜひプラネタリウムを見学したいですね。

高良内町 矢野 咲英

今日の星座のお勉強でびっくりしたことはやぎざの体の半分が魚になっていたのでびっくりしました。あと、吉田さんの月のえいぞうがとってもきれいだっただけですごいなあと思いました。

高良内町 辻口 瀧子

楽しみにしていました。天体観測が雨天の為、出来なかったのが本当に残念でしたが、語りべの方のお話はおもしろかったです。

高良内町 矢野 好晃

アニメでせいざがかっこいいと思った。でじたいざにとかで見れてよかった。やぎざがはしのぶぶんがちがうってのはじめてでした。楽しかったです。

高良内町 矢野 華帆

今日の「語りべたちの話」で西山芳枝さんは小学校の時にあった行事で読み聞かせとして来てくださっていました。なのでまた西山さんと会えてうれしくおもいました。

それと他にあった「天体の話」でお話して下さった梶幸男さんの話は分かりやすくて物語がとてもおもしろくて星座にもこんなおもしろい物語があるなんてびっくりしました。もっとくわしくしてみたいなと思いました。

善道寺町 西 美砂子

筑後の民話に始まり、星座のお話を聞くことが出来、充実した観月会でした。雨の為、望遠鏡での観察ができず残念でしたがスライドを見ることが出来たのでとても良かったです。会場のすすき、はぎの花の演出も秋の雰囲気が出ていてすばらしかったです。来年も是非参加し月や星をながめてみたいと思います。

津福今町 徳永 千代子

毎年楽しみにしております。お三方の語り素晴らしかったです。科学館の梶先生や吉田先生の星の話も勉強になりました。夕方からの雨で天体観測が出来なかったのが残念でした。心のこもったお茶やお菓子とてもおいしく頂きました。

荒木町 石橋 幸子

かたりの方は努力のあとが感じられます。星座の話は久しぶりでとても楽しかったです。古代人は星座のすばらしい物語りを作り出していたのに敬服致します。

はじめて星ざをしりました。星をかんさつしてみようと思いました。語りべの方のお話がとても聞きやすかったです。正直、雨が降って残念でした。近くプラネタリウムに行きます。



語り部の話を聞く参加者



星座の話

第401回例会**ネイチャーゲームと自然観察会**

参加者なしのため中止

第402回例会**キノコの観察会とキノコ野菜カレー**

申し込み者が48名ありましたが、雨のため中止となりました。



《行事案内》

◇ 第403回例会：

総会と環境講演会と新年会

平成25年度総会と環境講演会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：1月20日(日)

13:30 総会

14:30 講演会

「中国・ネパール・奥アマゾンの野生動物を追い続けて」

講師 津田堅之介(動物カメラマン)

〔会場〕筑後川防災センターくるめウス

〔参加費〕：無料 定員80名

〔持参するもの〕：筆記用具

※講演会終了後、「ビスヌ」電話0942-37-0369で新年会(17:30~19:30) 会費2500円を行います。事前に申し込みをお願いします。

◇ 第404回例会：

筑後川春の野草を愉しむ会

春の食べられる野草の観察会と野草・葉草の調理をして、春の野草を味わいます。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：3月31日(日)雨天中止

〔集合・解散〕：9:00・14:30

筑後川防災センターくるめウス

〔参加費〕：400円 定員60名

〔持ち物〕：マイはし、マイ皿、マイカップ、おわん、水筒、帽子、筆記用具

〔共催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

◇ 第405回例会：

高良山・樹木の名札つけと豚汁会

高良山北まわりコースの樹木の観察と樹木の名札つけをおこないます。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：5月26日(日)雨天中止

〔集合・解散〕：10:00・14:30 高良大社前

〔参加費〕：無料 定員50名

〔持ち物〕：マイはし、マイカップ、おわん、水筒、帽子、筆記用具

〔共催〕：久留米市農政部生産流通課

《事務局だより》

特定外来生物に指定されているセアカゴケグモ(オーストラリア原産・黒い体に背中赤い帯状模様が特徴)の発見がまた各地で報告されています。以前、久留米市でも発見されたが、最近では福岡市の人工島中央公園や古賀市、川崎市などから報告されました。側溝や公園のベンチの下、民家の植木鉢の縁、自動販売機の裏などで発見されています。海外の貨物船などからの上陸の可能性が高いと思われ、生息域が拡大して、すでに国内に定着したものと考えるのが妥当のようです。ちなみに、環境省では23府県で確認しているそうです。体長約1センチの雌のみが神経毒をもち、咬まれると抵抗力の弱い子どもや高齢者は重症化する恐れがあるので注意を喚起する必要があります。(大木 武彦)

ホームページもご覧ください。

<http://kurumenoshizen.net/>

1. 会員異動

入会 梅野 忠(久留米市)

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号118号は平成25年5月1日発行予定です。原稿のメ切りは4月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として奇数月第1水曜日の19:30~21:30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(1月9日、3月6日、5月1日)

久留米の自然

平成25年1月1日第117号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408